

6-2 人と自然との豊かな触れ合いを旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素

6-2-1 景観

1. 土地又は工作物の存在及び供用

(1) 地形改変後の土地及び工作物の存在

1) 地形改変後の土地及び工作物の存在に係る景観の調査方法

ア. 調査項目と選定理由

土地及び工作物の存在に係る景観の調査項目と選定理由を表 6-2-1-1 に示す。

表 6-2-1-1 土地及び工作物の存在に係る景観の調査項目と選定理由

調査項目		調査項目の選定理由
景観の状況	主要な視点場の状況 主要な自然景観及び都市景観 資源の状況 主要な景観の状況	施設の存在に伴う景観の変化が考えられ、影響予測及び評価の基礎データとして現況を把握する必要があるため。
	圧迫感の状況	施設の存在に伴う圧迫感の影響が考えられ、影響予測及び評価の基礎データとして現況を把握する必要があるため。

イ. 調査期間

土地及び工作物の存在に係る景観の調査期間と選定理由を表 6-2-1-2 に示す。

表 6-2-1-2 土地及び工作物の存在に係る景観の調査期間と選定理由

調査項目		調査期間	調査期間の選定理由
景観の状況	主要な視点場の状況 主要な自然景観及び都市 景観資源の状況 主要な景観の状況	晴天日の2回 (夏季及び冬季)	各視点場からの景観の状況を把握できる時期で、落葉期を含む年2回の現況把握が必要なため。
	圧迫感の状況		

ウ. 調査方法と選定理由

土地及び工作物の存在に係る景観の調査方法と選定理由を表 6-2-1-3 に示す。

表 6-2-1-3 土地及び工作物の存在に係る景観調査方法と選定理由

調査項目		調査方法	調査方法の選定理由
景観の状況	主要な視点場の状況 主要な自然景観及び 都市景観資源の状況 主要な景観の状況	資料調査及び現地踏査 (目視確認、写真撮影)	景観に係る現況を正確に把握できるため。 写真撮影は、予測評価の基礎データとして必要なため。
	圧迫感の状況	天空写真の撮影	予測評価を行うための基礎データとして必要なため。

工. 調査地域と選定理由

地形改変後の土地及び工作物の存在に係る景観の調査地域、調査地点と選定理由を表 6-2-1-4、表 6-2-1-5、図 6-2-1-1～図 6-2-1-3 に示す。

配慮書段階での検討結果から事業実施区域を視認できると考えられる最も離れたJRタワーまでの距離が7.2 kmであることから、事業実施区域から最大8 kmの範囲を調査地域とし、調査地点を選定することとする。

調査地点の選定にあたっては、施設の存在により視点場からの眺望の変化又は圧迫感の影響が想定される地点を設定した。

表 6-2-1-4 土地及び工作物の存在に係る景観の調査地域と選定理由

調査項目		調査地域	調査地域の選定理由
景観の状況	主要な視点場の状況 主要な自然景観及び都市景観資源の状況 主要な景観の状況	調査地域は事業実施区域から最大8kmの範囲とする。調査地点を表 6-2-1-5 及び図 6-2-1-1～図 6-2-1-3 に示す。	配慮書段階の検討結果を踏まえ、事業実施区域を視認できる地点のうち最も離れたJR札幌駅展望台までの距離が7.2kmであるため。
	圧迫感の状況		

表 6-2-1-5 土地及び工作物の存在に係る景観の調査地点

図中 番号 ^注	調査地点	事業実施区域 からの距離(m)	調査地点の選定理由
①	発寒いこい公園	470	施設の存在により視点場からの眺望が変化する可能性があるため。
②	新川西会館/桜並木	850	
③	発寒青空公園	950	
④	発寒西公園	1,400	
⑤	宮丘公園(遊戯広場)	3,100	
⑥	JRタワー展望台	7,200	
⑦	前田森林公園(ながめの丘)	3,800	
⑧	北東側工業団地内	280	施設の存在により圧迫感の影響が発生する可能性があるため。
⑨	北側工業団地内	250	
⑩	北側住居付近	150	
⑪	西側住居付近	280	
⑫	最寄ショッピングセンター(追分通)	370	
⑬	南側道路(下手稻通)	210	

注) 図中番号は図 6-2-1-1～図 6-2-1-3 に対応している。

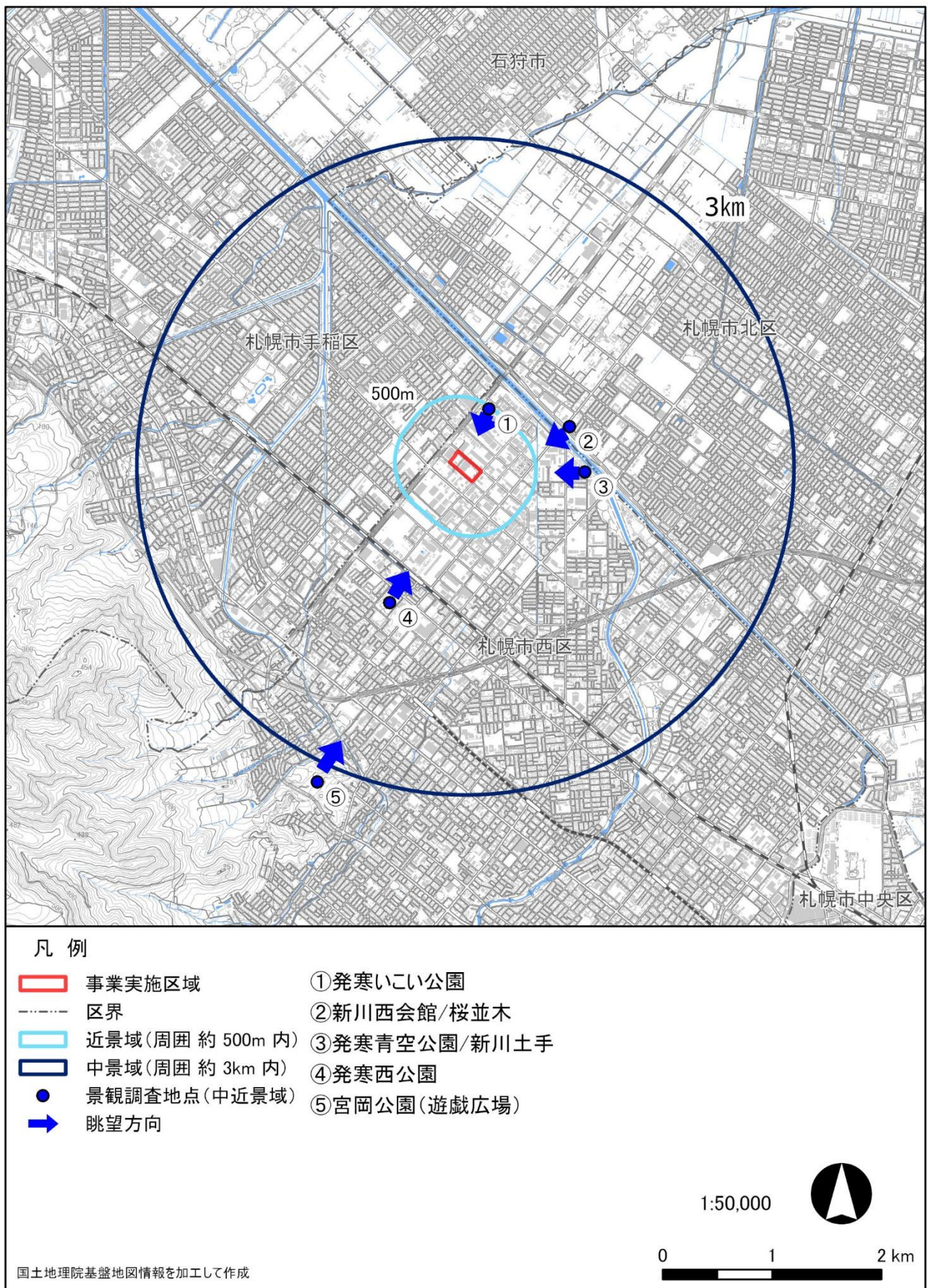


図 6-2-1-1 景観調査地点（中近景域）

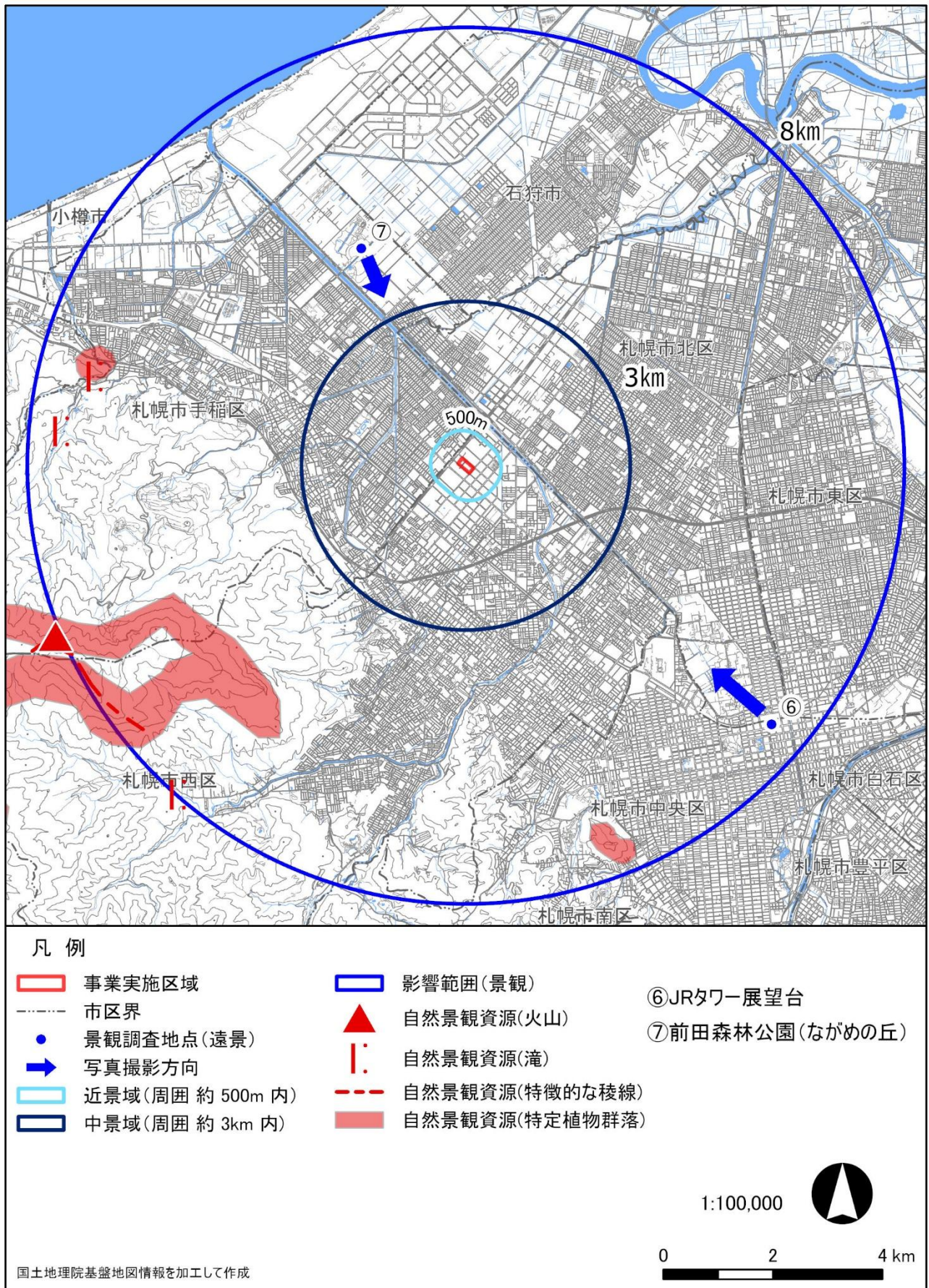


図 6-2-1-2 景観調査地点 (遠景域)

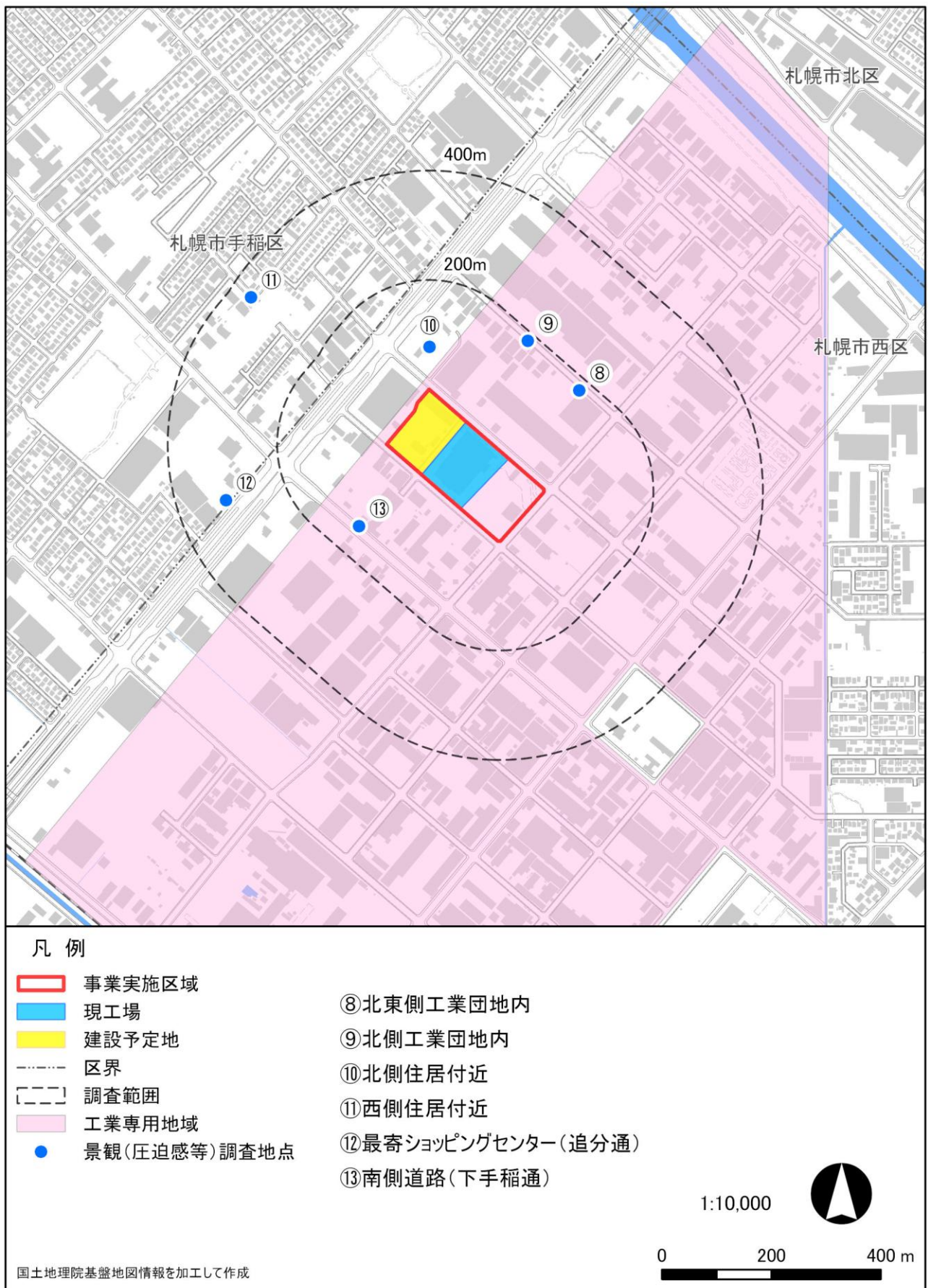


図 6-2-1-3 景観の調査地点 (近景圧迫感等)

2) 地形改変後の土地及び工作物の存在に係る景観の予測方法と選定理由

土地及び工作物の存在に係る景観の予測方法と選定理由を表 6-2-1-6 に示す。

表 6-2-1-6 土地及び工作物の存在に係る景観の予測方法と選定理由

影響要因：地形改変後の土地及び工作物の存在					
予測項目	予測方法	予測地域	予測地点	予測時期	予測方法の選定理由
感主供 の要用 程な時 度景の 観施 の設 の改 変存 及在 びに 圧伴 迫う	事業計画をもとに、視点場からの景観のフォトモンタージュを作成し、景観の変化を視覚的に予測する方法とする。 また、近景域については、天空写真を用いた形態率※の算出による圧迫感の影響を予測する。	調査地域と同じ地域（事業実施区域から最大8km）	現地調査と同じ13地点（フォトモンタージュ：7地点、形態率：6地点）	施設の完成した時期とする。また現工場と計画の新工場が並列する時期も予測する。	フォトモンタージュの作成による方法は「札幌市環境影響評価技術指針」（平成12年5月、令和3年3月17日変更）に示される標準的かつ実績の多い手法であるため。形態率の算出による圧迫感の予測は、文献に基づく手法である。

※形態率とは、視野の中で建築物が占める割合を壁面の立体角の割合で示すものであり、圧迫感の指標として評価に用いるものである。

出典：「周辺建築物の影響を考慮した大規模建築物から受ける圧迫感と許容限界値に関する研究」（日本建築学会大会学術講演梗概集、1990年10月、日吉聰一郎、武井正昭）

：「札幌市環境影響評価技術指針」（平成12年5月、令和3年3月17日変更）

3) 地形改変後の土地及び工作物の存在に係る景観の評価方法と選定理由

土地及び工作物の存在に係る景観の評価方法と選定理由を表 6-2-1-7 に示す。

表 6-2-1-7 土地及び工作物の存在に係る景観の評価方法と選定理由

影響要因：地形改変後の土地及び工作物の存在			
評価項目	評価方法		評価方法の選定理由
程要供 度な用 景時 観の 施改 設の 変存 及在 びに 圧伴 感う の主	環境影響の回避、低減に係る評価	現況と予測結果の対比を行い、事業者として実行可能な範囲内で回避又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正に行われるかどうかを評価する方法。	評価指標に対し整合が図られるか否かのみでなく、環境への影響について、事業者としてできる限り低減させることを考慮しているか判断できるため。
	環境の保全に関する施策との整合性に係る評価	＜評価指標との整合＞ 主要な景観の改変の程度については、予測結果と札幌市景観計画に基づく景観形成の考え方との整合が図られるかを評価する方法。 圧迫感については文献に基づく形態率との整合が図られるかを評価する方法。 ※評価指標を表 6-2-1-8 に示す。	札幌市景観計画における景観形成の考え方、圧迫感に係る評価指標と照らし合わせて評価を行うことで、施策や圧迫感に係る評価指標との整合について判断できるため。

出典：「周辺建築物の影響を考慮した大規模建築物から受ける圧迫感と許容限界値に関する研究」（日本建築学会大会学術講演梗概集、1990年10月、日吉聰一郎、武井正昭）

表 6-2-1-8 土地及び工作物の存在に係る景観の評価指標

項目	評価指標
主要な景観の改変の程度	札幌市景観計画における「市街地の外」の景観形成の以下の考え方。 ○良好な自然環境や優良な農地の景観の保全を図る。 ○高次機能交流拠点周辺などで土地利用を行う際は、その特性を踏まえた景観形成を図る。（札幌市景観計画より抜粋）
圧迫感の程度	「札幌市建築基準法施工条例」（昭和35年条例第23号）に基づき計画施設の形態率15%以下とする。